

第3回大阪エンターテイメント都市構想推進検討会 開催結果概要

■日時：平成22年9月7日（火） 10:00～12:00

■場所：プリムローズ大阪 2階 「羽衣の間」

■出席委員

橋爪 紳也（座長）	大阪府立大学21世紀科学研究機構 特別教授
大井 敬雅	大阪府PTA協議会 会長
勝見 博光	大阪市立大学都市研究プラザ 特別研究員
木村 慎作	大阪府 副知事
倉田 薫	大阪府市長会 会長（池田市長）
津田 和明	財団法人大阪観光コンベンション協会 会長
中 和博	大阪府町村長会 会長（能勢町長）
名倉 嘉史	大阪市ゆとりとみどり振興局 理事
吉田 功	堺市財政局 企画部長
川端 啓恵（代理）	大阪商工会議所 地域振興部 課長

■ 内 容

栗田 朗 株式会社博報堂 カジノ・エンターテイメントプロジェクト代表並びに西村 周三 京都大学副学長をお招きし、カジノを含めた統合型リゾート（IR）導入に伴う経済効果、ギャンブル依存症対策等について、海外事例等も踏まえてご講演いただき、その内容をもとに検討した。

■ 意見交換

- 海外のカジノオペレーターは、大阪への立地魅力についてどのように言っているのか。
 - ⇒（栗田氏）世界にはグローバルに活動しているカジノ事業者は10社程度ある。先ほど例として紹介したラスベガス・サンズ社は、大都市でのMICE中心のIRが得意であり、同社の会長は、大阪か東京でIRを展開したいと発言している。マリーナベイ・サンズのフルオープン（6/23）時の記者会見でも、同社の社長が次の投資は、日本で、大阪か東京でしたいと発言している。私が聞いているだけでもサンズ社と同様に大阪に興味を持っている企業は2社ほどある。そういった意味では、政府での法律成立後、大阪が選ばれば、一緒に組める力のある事業者は必ずいると思う。
- カジノ収益の一部を財源とした国立の依存症対策センターが必要とのお話があったが、カジノが合法化されなくてもそういったセンターが設立されるという動きはあるのか。
 - ⇒（西村氏）今のところ聞いていない。国立でなくても、プライベートな組織としてでもできることを期待している。
- IR成功の一つの要素に文化振興がある。イギリスでは文化産業に多くの財源が振り向けられている。日本は、どうあるべきか。
 - ⇒（栗田氏）IR導入の目的は、世界から人々を集め、情報発信すること。国際会議後のアフターコンベンションは極めて重要。世界最高峰及びその地域でしか見られないエンターテイメントがないと、開催地として選ばれない。地域が満足するだけのエンターテイメントではなく、世界に通用するエンターテイメントとしては、企画・開催準備までに100億円、運営に100億円くらいの規模の大きな投

資が必要だが、回収見込みが不透明なので、そうした仕掛けを含めて実施していくとするとIR構想しか支えられない。

- IRの開発・運営は民間がよいか、官が関与するのがよいか。
⇒ (西村氏) IRの運営は民間に任せて民間のアイデアを出してもらい、規制や審査は国が関わるほうがよいのではないか。医療産業が参考になる。病院は6割が民間だが、規制は国。官民で役割分担しながらやっていけばいいのでは。
- 依存症の問題に関して、小さい頃からいいことと悪いことをしっかり教えていくことが必要と感じた。学校教育にどのように盛り込んでいくべきか。
⇒ (西村氏) 株式についての講座を実施している中学校、高校がある。金儲けの仕方ではなく、株式市場、米相場がどのような機能を果たしているのかについて学ぶことは重要。カジノも、人間の本質にとってどういう意味を持っているのかということについて教えることはできるのではないか。
- カジノの胴元は、どれだけの利益が出るのか？
⇒ (栗田氏) 競輪・競馬は25%、宝くじは約50%を予め胴元が控除するが、カジノにはそれがない。統計上は5%程度。
- IRの利益が地域振興に使われるのか疑問。利益は海外に出て行き、カジノによる副作用だけが地域に残ることにならないか。
⇒ (栗田氏) カジノは規制産業。入札条件で、事業者にどのような施設を作らせるか、どのような地域振興策をとらせるかを明示させることが可能。また、カジノ税を課して地域に還元させることも可能。ただし、あまりに税率が高いと再投資する資金がなくなり、施設の魅力が低下する。
- 早ければ来春にも法案を国会に提出するとのことだが、カジノについて市長会ではまだ議論していない。町村長会、大阪市もそうではないか。府内市町村との連携も考えてほしい。
⇒ (木村委員) 府民の同意がなければ手を挙げることはできない。府としては、経済効果等の観点からIRを導入したいとの思いはあるが、様々な情報を提供しながらこの検討会で十分に議論した上で一定の取りまとめを行いたい。また、議会や府民の皆さんの意見も聞いていく。
- 法案骨子(議連会長私案)を見ると、国への提案はかなりハードルが高い。こういう場を通じて意見を吸い上げてもらいたい。

■ まとめ(橋爪座長)

経済活性化のための最後の救世主としてIRを導入するのではなく、なぜ大阪にIRが必要かを考えるべき。そういう観点から、議論をまとめていきたい。

※次回の会議は、11月上旬の予定。